

まえがき

本書をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。ここ数年「プログラミング教育」というキーワードをちまたでよく耳にするようになりました。2020年から小学校で必修化され、2025年には大学入試にも導入されるといわれているプログラミングですが、数年前には教育という分野にプログラミングというカテゴリが加わることなど、きっと思いもされなかったことでしょう。ではなぜここ数年で急にプログラミング教育がこれほどまでに注目されるようになったのでしょうか？

13年以上にわたってプログラミング教育の第一線で活躍してきた私から言わせると、プログラミング教育の価値そのものが急に変化したわけではありません。元々それ自体に高い価値があったものの、それが教育に及ぼす影響についての認識が不足していただけなのです。たとえば、あなたが友人との待ち合わせ場所に向かうために道を歩いていることを想像してみてください。待ち合わせ場所に向かう途中で道端に鈍く光る小さな石が落ちているのを見つけます。何かと思って拾い上げてみると、それはどうもガラス玉のように見えます。そのときは特に何も価値を感じませんでしたが、とりあえずポケットに入れて友人に会いに行くことに

しました。友人といろいろな話をしているうちに、ふとその友人が宝石に関して詳しい知識を持っていることを思い出します。まさかそんなことはないだろうと思いつつ、先ほど道端で拾ったガラス玉のようなものをポケットから取り出して友人に見せることにしました。あなたからそれを受け取った友人はよく観察してから驚いた表情でこう言いました。「こんなものどこで手に入れたの？ これはとても価値のあるダイヤモンドの原石だよ」。

実際にプログラミング教育はダイヤモンドの原石のような高い価値を秘めているのですが、専門的な知識がない一般の人々から見るとそれはガラス玉のようにしか見えなかったことでしょう。もしかすると今本書を手にしておられるあなたも、これまでプログラミング教育に対して特に価値を感じられなかったおひとりかもしれません。

しかし、本書を読むことで、あたかも宝石に関する専門知識を持つ友人からあなたの手にある原石の価値についてレクチャーを受けたかのように、プログラミング教育に対するあなたの認識は大きく変わることでしょう。

本書ではまず私自身のライフストーリーから、プログラミングが人の生きる力になることをお伝えしたいと思います。

私がプログラミングと出会ったのは15歳のときで、プログラ

ミングやITとははるかに縁遠い北海道の十勝平野でのことでした。貧しい家庭でお金がなくて、高校もろくに行けなかった中卒の私が、大手企業の研修講師として東大や京大卒のエリートを相手に教育を施すようになり、今ではNEC・LINE・富士通などの大手企業とコラボするプログラミング教育ブランド「ロジカ式」を運営する経営者となった経緯を知っていただくことで、生まれ育った環境や学歴に関係なく、プログラミングが人の生きる力になることを実感していただけるものと思います。また、私の体験が、同じような境遇にある子どもたちに、少しでも勇気や希望をもたらしてくれればと願っています。

さらに、プログラミングに関するスキルが必須といわれる現代の社会的背景について考察することも大切です。世界と比べた日本の教育の現状や、プログラミング教育がないと今後どうなってしまうのかについて理解を深めることで、プログラミング教育がこれほどまでに注目されるようになった理由もご納得いただくことができるでしょう。

2020年から小学校で始まった日本でのプログラミング教育が今後どうなっていくのかについても、お子さんを持たれる保護者の皆さんは強い関心を抱いておられることと思います。私が代表を務める「NPO法人ロジカ・アカデミー」は、2018年から大阪府池田市でいち早く小学校のプログラミング教育を担当していま

すので、実際の教育現場の様子や今後についての予想をお伝えできればと思います。

そして最も重要なこととして、ビジョンを設定して貫く力、問題にぶつかってもあきらめずに耐え抜く力、思考力をフルに働かせて最善の解を考え抜く力、相手に合わせてわかりやすく伝える力など、これからの社会で生きていくために子どもたちに必要な人間力が、実際にどのようなプロセスを経て育まれていくのかを実際の体験談なども交えながらお伝えしていけたらと思っています。

さあ、本書を手にしたあなたはプログラミング教育をガラス玉としてポケットに入れたままにしておくのか、それともダイヤモンドの原石として有効活用するのか、どちらかを選択することができるのです。お子さんの未来を真剣に考える、ダイヤモンドの原石を手に入れたい方だけ、次のページへお進みください。